

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

●群馬大学医学系研究科保健学専攻

「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

カリキュラムの改訂：本教育プログラムの実行にあたって、教育カリキュラムの改訂に着手、平成20年度より「地域保健医療研究概論」を新たに開設した。また、e-learningによる科目（地域精神保健特論Ⅰ）の新設に着手し、平成21年度より、e-learningによる科目としては初めて、正式に共通・コア科目として開設し、運用を開始した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

「地域保健医療研究概論」は地域保健医療の現状、取組、問題点や地域保健医療研究の方法について、特定の職種や分野にとらわれず、地域保健医療に関する幅広い知見が修得できるよう、全教員に参加を促し、毎年、バランスの良い講義展開が出来るよう努めた。一方、「地域精神保健特論Ⅰ」は社会人学生が自宅で単位を修得できるように群馬大学のMoodleを利用して、internetに接続出来る環境であればいつでも受講できるように整備した。また、e-learning受講中に計10回の小テスト（WEB上で回答）およびレポート提出（ファイルにて）を課すことで、e-learningによる講義でも学生が内容を把握しているか、確認できるよう注意を払った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「地域保健医療研究概論」は平成20年度には47名の学生が受講し、プロジェクト修了生に対するアンケートにおいても、9名中8名が地域保健医療研究概論は役にたったと回答しており、その理由として、「地域の問題点を考える契機になり、自己の研究テーマを考えるのに役立った。」「様々な分野の最新情報を知ることができた。」「自分の研究領域以外の講義をきくことができ、とても参考になった。」などがあげられている。また、群馬大学医学系研究科保健学専攻では平成23年4月より研究科設置を予定しているが、研究科設置にあたってはこれらの科目は分野あるいは領域にとられない横断的なユニットコア科目のモデルケースとなっている。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

《医療系》

●群馬大学医学系研究科保健学専攻

「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

1. GP 推進室整備・運用：GP 推進室に社会人大学院生専用のパーソナルPC や書籍を設置し、会議スペースを整備した。さらに助教2名が常駐して、社会人大学院生等の研究活動を支援した。
2. e-learning による講義の導入。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

カード(学生証)認証による24時間出入管理システムを導入し、夜間の積極的な利用セキュリティを確保した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本学ではすでに昼夜開講制や長期履修学生制度等を導入して、社会人学生が職場を辞することなく修了要件を満たせるよう努めてきたが、さらにe-learningの導入により自宅あるいは職場での単位取得が可能となった。保健学専攻博士前期課程の志願者数は平成19年度は56名(定員56名)であったが、本プロジェクトの実施と広報活動により、平成20年度は74名と明らかな増加が認められた。